

1 研究テーマ 基本表現をもとにした、より効果的なライティングによる自己表現の充実
～小学校での外国語活動を意識した言語活動の充実～

2 はじめに

今までの自分の授業を振り返ってみると、文法の説明が長くなったり、授業の流れが一定のパターンになったりしがちで、生徒を主体とする授業になっていなかったという課題があった。そこで、1年生の授業で小学校外国語活動での経験を生かしながら、生徒同士のコミュニケーション活動の場面を設定し、毎時間の「書く」活動を行ったりすることを通して、自己表現の充実を図るための授業改善を行うことにした。そして、学習指導要領で重要とされている「4技能の総合的な育成」をねらった授業づくりを進める中でも特に「書くこと」に重点を置いた授業のあり方について研究したいと考えた。

3 研究目的

本校の英語に関する生徒の実態を見ると、「書くこと」への苦手意識を持つ生徒が多い。ペアでのスピーキング活動や重要表現5文ライティングテストを取り入れることで、「書くこと」への不安感を軽減させ、いっそうの定着が図られるのではないかと考え、研究を行う。

4 研究内容

(1) 実態把握

1年生に実施したアンケートより

- 「英語を使えるようになりたい。」と思っている生徒
・・・95%
- 4技能の中で一番難しいと感じていること
・・・「書くこと」が71%で最も多い

書くことが一番難しいと感じる原因として考えられること

- 単語の定着（発音、綴り、意味）が不十分
- 基本文の理解が不十分
- 英文を読む力が十分身につけていない
- 英文を書く力が十分身につけていない

(2) 研究の柱

ア. 「見通し」を持たせる

- ・ 学期や単元を見通して、到達点を生徒と共有する

イ. 表現するために必要な「書く力の基礎」をつくる活動を継続して取り組む

- (内容) ・ 「ペアでのスピーキング活動」を帯学習として実施
- ・ 「重要表現5文ライティングテスト」を週1回実施

ウ. 小学校でも学んだ「聞くこと」「話すこと」を効果的に取り入れる

- ・ 写真などの視覚的なものの提示

(3) 授業実践

① 学期を通した実践

ア. 「見通し」を持たせる

- ・ 2学期末に人の紹介を7文以上書くことができることを到達点として生徒に示し、共有を図る
(課題) 到達点を意識した日々の授業のあり方

イ. 表現するために「書く力の基礎」をつくる活動を継続して取り組む

○ 「ペアでのスピーキング活動」

(内容)

- ・ 帯活動として、人の紹介でよく使う基本表現をペアで交互に音読する活動（1回 60秒）
- ・ 毎回、時間内に読めた文の数を記録表に記録

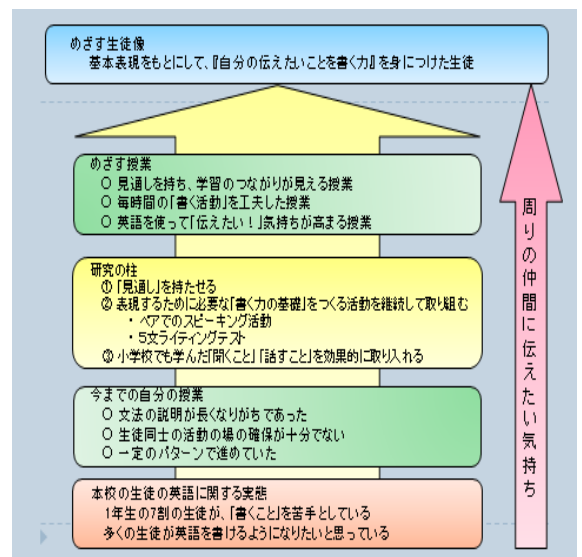
(成果)

- ・ 自分たちの記録を更新させようと取り組んだ結果、英文がなめらかに読めるようになった

(課題)

- ・ 全員が自信を持って大きな声で発音できるようになるための発音指導や音読練習のあり方の工夫

図1 研究の構想図



○ 「重要表現5文ライティングテスト」

(内容)

- ・週1回、基本表現を5文書くテストを実施(図2)
→「ペアでのスピーキング活動」で使うシートの中から、教師が基本表現を5文選び、それを10分間集中して書く練習をする。その後、その5文を書くテストを行う

(成果)

- ・回を重ねる中で、自分の間違いやすいところに気付き、間違いが減ってきたことが、テストやアンケート結果からわかった

(課題)

- ・単語の定着が十分に図られていない

② 単元を通じた実践(2学期)より

- (ねらい) ・まとまりのある紹介文を書くこと
(単元名) ・My Project 2 (人を紹介しよう)
(対象学年) ・1年生A組、B組(各19名)
(期間) ・平成24年12月11日～17日 各クラス4時間

ア. 「見通し」を持たせる

(内容)

- ・単元の授業日程表の配布とともに毎時間の授業の目標と流れがわかるものを提示

(成果)

- ・生徒が基本表現や活動への意欲を高めるのに効果的であった

イ. 表現するために「書く力の基礎」をつくる活動

(内容)

- ・「マッピング」の手法を用いた紹介文の作成(図3)

(成果)

- ・書く内容についての発想を広げることや考えを整理し、文と文の前後の繋がりを意識して書きやすくなった(図4)

ウ. 小学校での外国語活動の中学校への活用

(具体的な取り組み)

- ・導入時に、歌手のビヨンセのコンサート映像や写真を提示し、音声面の「聞くこと」から活動に入り、「書くこと」「話すこと」などの活動に繋げる

(成果)

- ・人の紹介に関心を持たせることに有効であった
- ・「聞くこと」から「書く」「読む」活動へとスムーズに繋ぐことができた

5 研究のまとめ

(成果)

- 学期や単元を見通したゴールを生徒に示したことが、見通しを持ちながら活動に取り組むことに繋がり、生徒の意欲の向上にもつながった
- 継続的にペアでのスピーキング活動を行うことで、基本文を抵抗なく読むことへとつながった
- 週一回ライティングテストをすることで、書く力を高めることができた

(課題)

- 単語の定着について、まだ不十分である
- 自信を持って大きな声で話すことはまだ不十分である

6 今後の課題

- ペアでのスピーキング活動をさらに継続していく上での、ペアの組み方などの工夫改善が必要
- いろいろな単語や基本文の関連を意識した指導の工夫が必要
- 授業における発音指導の徹底
- 家庭学習での音読練習や単語練習が必要

7 おわりに

今年度、本研究に取り組んだことは、今までの自分の授業の課題を洗い出して改善するきっかけになった。どんな力を身につけさせるのかを明確にして、ねらいを達成するための活動を仕組むことの大切さに気付いた。今後は生徒が英語を使ってもっと表現したくなるような活動を計画的に仕組んで、「自分の伝えたいことを書く力」を身につけた生徒を育てたいと考える。

図2 重要表現5文ライティングテスト
Aさんの例

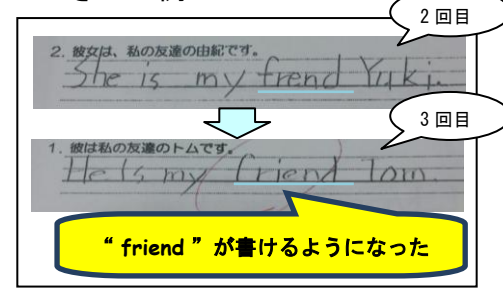


図3 マッピングの例

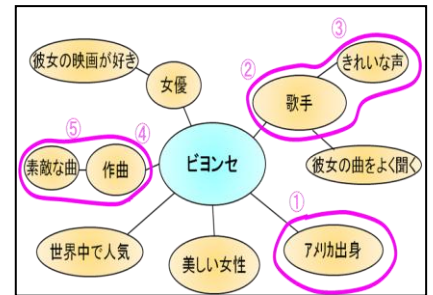


図4 「人の紹介」について英文を「書くこと」にチャレンジ!
事前調査(12月10日実施) 事後調査(12月17日実施)

